

東京タワー メインデッキ



外観

東京のランドマークとして開業から60年の歴史を積み重ねてきた東京タワー。メインデッキの大規模リニューアルが完了。



トイレ入口

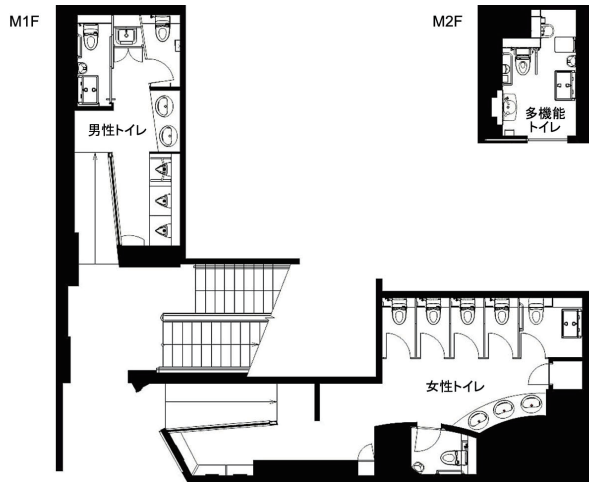
男女トイレの入口は黒と赤の異なる色調で識別しやすい。内部の空間への期待感が高まる直線のアプローチは、混雑時には一列並びがしやすい。



女性トイレ 全体

優雅で印象的な赤が上質な空間を演出している。洗面コーナーには、美しいイタリア製のタイルを用いた。

トイレ図面



女性トイレ
パウダーコーナー

隣の人の視線を気にせずにお化粧直しができるように個別の仕切りを設けたパウダーコーナー。3人が同時にゆっくりとお化粧直しができる。



男性トイレ 洗面コーナー

男性トイレの内装も赤で統一されている。洗面器は手洗いから乾燥まで洗面ボウル内で行える自動洗面器（オートボウル）を採用。また身だしなみをチェックできる全身鏡を設置している。



男性トイレ
小便器コーナー

手荷物に配慮して、荷物置き台を設けた小便器コーナー。小便器の足元には、尿の飛散によるにおいや汚れを軽減するハイドロセラフロアPUを設置。

水まわりの特長

改修の経緯

東京タワーは1958(昭和33)年に竣工。2017(平成29)年から2年に及ぶ全面的な改修工事を実施。2階建て構造のメインデッキは、窓枠サッシ・ガラスのすべてを更新し、ワイドビューが実現。足元の鉄柵も取り外し、ガラスに近づいて迫力ある眺望を楽しめる。さらに内装壁面は、ダーク調の色彩に、高級感のあるガラス素材を用いて、内壁面にも東京の風景が映り込む演出が加わった。エレベーターの更新や動線のバリアフリー化などの環境整備により、安全性と快適性が向上。開業以来60年、新たな時代にも世界が目にする東京のイメージにふさわしい魅力ある施設でありつづけるため、生まれ変わった。

トイレの特長

東京タワーを訪れるさまざまなお客様の使いやすさを考えて、トイレはユニバーサルデザインに配慮。以前、殺風景だった内装はアミューズメント施設のトイレとして、ラグジュアリーなデザインに刷新。東京タワーの「レッド」で非日常の時を過ごしてもらいたいと考えた。メインデッキ1Fは、既存の男女トイレのスペースをすべて男性トイレとし、女性トイレのスペースを新たに創出。メインデッキ2Fは、元々トイレがなかったが、柱内の狭小スペースに多機能トイレを新設した。展望台の限られた空間を有効活用したことにより、メインデッキのトイレの面積は全体で2倍以上拡大したが、配管はすべて既設配管につながるように工夫されている。

建築概要

名称	東京タワー メインデッキ
所在地	東京都港区芝公園4-2-8
施主	株式会社TOKYO TOWER
設計	有限会社設計事務所ゴンドラ
施工	株式会社日展
竣工年月	(改修)2019年9月
敷地面積	15,577.14㎡
建築面積	4,120.34㎡
延床面積	24,088.21㎡
構造・階数	鉄骨造、一部鉄筋鉄骨コンクリート造・地下2階、地上13階

おもなTOTO使用機器

パブリック向けウォシュレット一体形便器:CES959S特
パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS497BP
ウォシュレットアブリコットP:TCF5820/スベア付紙巻器:YH150R/LS
柵付二連紙巻器:YH701/自動洗浄小便器:UFS900
ハイドロセラフロアPU:AB680B/自動洗面器オートボウル:TYL100
壁掛洗面器:L270CM/埋込手洗器:L570/コンパクトオストメイトパック:UAS81L
ベビーチェア:YKA15R/ベビーシート:YKA25R/フィッティングボード:YKA41



男性トイレ
ひろびろブース

大便器ブース内はすべて清潔感のある白を基調とした空間。男女トイレ共に、ベビーカーごと入ることができ、ベビシートやベビーチェアを備えたひろびろブースを1ヶ所設置している。



多機能トイレ

これまで展望台にはなかった、多機能トイレを新設。一般トイレとはフロアが異なるため、案内板でトイレの位置を示している。



多機能トイレ

車いす使用者やお子様連れ、オストメイトなど、さまざまな使用者を想定し、コンパクトオストメイトパック、フィッティングボード、ベビーチェア、ベビシートを完備している。